

## 区画整理と街づくりフォーラム 2018

平成 30 年 11 月 12 日、13 日の 2 日間にわたり、区画整理と街づくりフォーラム 2018 が、埼玉県さいたま市において開催されました。今回はテーマを街づくりと地域・事業・人の連携～街の拠点



分科会の様子

点形成・再構築とネットワークの強化～とし、分科会での招待論文や研究発表、意見交換会等を通じ、貴重な情報交換の場とすることが出来ました。当日は二日間共に約 400 名のご参加を頂き大変盛況に開催することが出来ました。以下、概要をご報告いたします。

### (1) 分科会

初日は、テーマ別に 3 つの分科会に分かれ、招待論文 3 編を含め 18 編の論文が発表されました。

### (2) 優秀論文の表彰

街づくりや事業実施にあたって、様々な創意工夫をもって取り組んでいる事例・計画であり、これからの街づくりや土地区画整理事業に大いに参考となる論文・発表に対して、優秀賞が贈られました。



優秀賞受賞者

### ◆分科会の構成と優秀論文（※敬称略）

	第 1 分科会	第 2 分科会	第 3 分科会
テーマ	街づくりと地域・事業・人の連携～街の拠点形成・再構築とネットワークの強化～	まちづくり計画の実現に向けた面的整備事業等の活用	区画整理実施上の技術・工夫
招待論文			
タイトル	さいたま新都心のまちづくり（30年）	東京オリンピック・パラリンピック競技大会とその先の東京を支える臨海部の街づくり	区画整理と再開発の一体施行地区における換地設計の工夫～湊二丁目東地区の事例～
所属	前さいたま市都市計画審議会会長（元埼玉県職員）	東京都 都市整備局 市街地整備部 区画整理課 主任	独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 事業推進部 事業推進基盤調整課 課長
氏名	堀本 一夫	佐藤 裕隆	石倉 敬
優秀論文			
タイトル	東急多摩田園都市・次世代郊外まちづくり - 官民連携による郊外住宅地再生 -	震災復興事業におけるまちづくり計画実現に向けた区画整理事業等の活用	土地利用計画の実現に向けた換地手法
所属	東京急行電鉄株式会社 都市創造本部 開発事業部 次世代郊外まちづくり課	独立行政法人都市再生機構 宮城・福島震災復興支援本部 市街地整備部	株式会社オオバ 名古屋支店 まちづくり部 区画整理二課
氏名	泉 亜紀子	平林 義勝	小木曾 哲郎

2日目は、開催地挨拶としてさいたま市長清水勇人様からご挨拶をいただいた後、国土交通省大臣官房の徳永幸久技術審議官（都市局担当）から、「コンパクトシティの実現による魅力的なまちづくり」と題した基調講演と、大阪府箕面市長の倉田哲郎様から、「北急延伸によるコンパクトなまちづくりと区画整理」と題して特別講演をいただきました。



さいたま市清水市長

### (3) 基調講演『コンパクトシティと地方都市再生の推進』



国土交通省 大臣官房  
徳永技術審議官

- ・コンパクト・プラス・ネットワークの本格的推進
- ・「都市のスポンジ化」への対応
- ・平成31年度都市局概算要求事項
- ・新技術への対応
- ・土地・建物一体型の市街地整備手法活用マニュアル
- ・様々な街づくりの事例



### (4) 特別講演『北急延伸によるコンパクトなまちづくりと区画整理』



箕面市倉田市長

北急延伸に賭ける熱意と仕掛け方や、大阪府とのトップ同士の協議による進め方、また鉄道延伸に伴う公共交通の再編と新駅周辺整備と都市機能誘致による都市の再編整備コンパクト化など大変示唆に富んだお話を頂きました。

大阪大学箕面新キャンパスの新駅周辺への誘致方法等と併せて図書館・文化ホールを立地させて様々な機能が連携するような意欲的な取組にも感心しました。



続いて、「街づくりと地域・事業・人の連携～街の拠点形成・再構築とネットワークの強化～」をテーマに、日本大学の岸井隆幸教授をコーディネーターとして、パネルディスカッションを行いました。



(5) パネルディスカッション

テーマ：街づくりと地域・事業・人の連携～街の拠点形成・再構築とネットワークの強化～



コーディネーター 岸井教授

・コーディネーター

岸井隆幸 日本大学理工学部教授、  
(一財)計量計画研究所代表理事

・パネリスト

岡 絵里子 関西大学環境都市工学部教授  
岡崎 正信 株式会社オガール代表取締役  
長谷川 隆三 株式会社フロントヤード代表取締役  
(全国エリアネットワーク事務局次長)

このパネルディスカッションでは、様々な分野で街づくり、拠点づくり、人との連携に取り組まれている方々をお招きして、パネリストのお話とディスカッションをしていただきました。



岡崎代表取締役

岡崎様からは岩手県紫波町で塩漬けの市有地を活かして町興し・街づくりで全国有数の元気な街にした公民連携のトップランナーとしてパブリックマインドある民間がプロジェクトを起こし、行政がこれを支援する形が公民連携の基本であること、また補助金に頼らない事業を常に緊張感を持って取り組む必要、地方だからこそピンホールマーケティングが必要など、示唆に富んだお話がありました。

岡様からは、機嫌よく暮らすまちをテーマにブータンの国民総幸福量を引き合いに、日本人の幸福度の特長について、また地域マネージメントの目標はそこに暮らす

人たちが、日々機嫌よく暮らしている状態と考える。それはコミュニティの中で価値のある存在であること、人でネットワークを広げていく、出来ることを分担する、これが得意だっている人の、自分の力を活かす、そんなことから人々の居場所づくりが大事なこと。もう一つは、人々のやりたいという気持ちを支援するようなシステムを作る、楽しくやるとか、面白おかしく活動をするとか、自分たちが実際にやりたいと思っていることを出来るような場所や空間、やりたいことを実際に実現するような、そんなシステムを作ることが大事だと分かってきた、といったお話を頂きました。



岡教授

長谷川様からは、エリアマネジメントで最も重要なのが、地域の関係者との信頼関係をしっかりと築いていくところである。まちづくり活動を盛り上げていく、生み出していく仕組みであり、プラットフォームである。様々な人々が、エリアの中で活動していく、プレーヤーをいっぱい増やしていくことがエリアマネジメント組織の役割、という認識が示されました。

その後のディスカッションでは、岸井教授のコーディネートのもと、パネリストから以下のような意見がありました。



長谷川代表取締役

岡崎様：良い仕事をするためには自分がプロデューサー役となって、色々な優秀な人達のチームを作ることが大切である。

長谷川様：パブリックスペースも、その先の活用の仕方を見越しながら緻密にアクティビティを想定しながら空間を作っていくことが重要。

岡崎様：民有地、民の建物、不動産と公共の不動産の間の『のりしろ』を作ることによって、一体空間が生まれる。使う前提で議論すると絶対こうなるはず。どこから民でどこから公かなんて、誰もわからない空間を作ることが必要だと思っている。

岡様：区画整理した街は何もかもが立派で高規格過ぎる、ヒューマンスケールではないオーバースケールになっている。街はヒューマンスケールであることが大事です。あいまいなことをちゃんと分かってやるということがとても大事なことで、計画的にそういう空間を作っておくことによって『のりしろ』を作ることによって様々な活動が生まれ、そこをマネジメントすることが必要で、自分たちも気持ち良く使っていくことが出来ると思います。またデザイン性はすごく大事で、ここは大事っていうところは、きちんとデザインすること。

最後に岸井教授から公共的な空間の中でも、我々の身近な所の空間は、我々自身が管理をしたり、あるいは守っていくということを、昔からやっていた。そういったことがもう一度地域の中でやれるような時代、そのことが人々が街へ出てくることに繋がって、地域の中でつながりを持つことによって面白さを感じ、街の良さを感じる事が出来る、そういう社会が整えられてくる気がしますと、纏められました。

